

四三七八番

月つくひよ日夜は 過すぐは行ゆけども 母あもしし父が 玉たまの姿すがたは
忘わすれせなふも

四三七九番

白しらなみ波の 寄よそる波はまへ辺に 別わかれなば いともすべな
み 八やたびそでふ度袖振る

四三八〇番

難なにはと波津を 漕こぎ出でて見みれば 神かみさぶる 生いこま駒たかね高嶺
に 雲くもそたなびく

四三八一番

国くにぐに々の 防さきもりつど人集ひ 舟ふなの乗りて 別わかるを見みれば い
ともすべなし